

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 元年 6 月 26 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04498

研究課題名（和文）戦後改革期における女性の大学教育の確立とその特徴 共学大・女子大並立の視点から

研究課題名（英文）A Research in the Establishment and Characteristics of Women's Universities in the Post-War -From the Perspectives of Co-Educational Universities and Women's Universities-

研究代表者

湯川 次義（Yukawa, Tsugiyoshi）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：60188026

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000 円

研究成果の概要（和文）：戦後教育改革期の女性の大学教育の制度的確立について、政策立案過程、制度確立、女子大学の設立過程、大学の共学化について、実証的に個別的な考察を重ね、ほぼその全体的研究を達成することができた。

成果の一端を示すと、については、日本側の政策だけでなく、CIEの指導に内容についても資料的に明確にできた。については、戦後の新しい女性像を基盤にしながらも、戦前の特性教育的要素を教育目的や学部組織などを残し、戦前の女子高等教育機関を基盤にして成立したことが実証できた。については、日本国憲法の男女平等の理念を基盤にしつつ、共学化政策を受け、ほとんどの大学が共学科したことを数量的にも明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、戦後の女性の大学教育の確立について、政策立案過程および制度、女子大学の設立、大学の門戸開放、共学化について、学校教育法成立以前と以後に分け、総合的に究明するものであり、これまでこのような研究は見られなかった。については、CIEの文書をほぼ悉皆的に調査し、については個別の女子大学設立認可申請書を分析し、戦後の新しい女性像を基盤としつつも、特性教育的理念や学部・学科組織の上に女子大学が成立したことを明らかにした。についても個別大学の共学化を、国公立大学に類型化して実証的に明らかにした。

本研究は、男女の社会的格の大きい日本社会の女性あり方を考える際の基盤として役立つと考える。

研究成果の概要（英文）：Regarding the post-war educational reform of the establishment of women's higher educational system, 1) Policy making process, institution establishment, 2) Establishment process of women's higher education, 3) the adoption of co-education in universities. The overall research was accomplished in this presented study through an empirical and individual approach. The following statements can be shown as the indication of success: regarding part 1), in addition to Japanese policy, the CIE guidelines were also supported through documents. Regarding part 2), the female post-war persona was based on the pre-war components of characteristic education and female higher educational institutions. Regarding 3), with the recognition and protection of gender equality in the Japanese Constitution as basis, and the adoption of co-educational policies, most of the schools have become co-educational universities.

研究分野：教育史

キーワード：戦後教育改革 女性の大学教育 共学大学 女子大学 CIE

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまで、戦後の学制改革期に確立した女性の大学教育について、共学大学と女子大学の2系統で成立した点が日本の女性の大学教育の歴史的な特性であったとの仮説を設定し、CIEや文部省の政策、既設大学の男女共学化過程、女子大学の設立過程及び理念・学部構成に見られる特徴、の3側面から研究を進めてきた。本研究では、上記～の研究成果を統合させることにある。

2. 研究の目的

女性の大学教育確立の歴史的意義と特徴を総合的に究明することを目的とする。以下の研究課題を設定して研究を進めた。

第一には、時期として、1947年までの旧学制下の動向と

女性の大学制度確立についての政策を明らかにする。その際、日本の文部省の政策だけでなく、CIE(民間教育情報局)の動向にも着目する。さらには、女子大学の設置について、大学基準の設定過程で女子大学基準や家政学教育基準が策定されたことに関して、その論議や基準の内容を検討する。ことに、これらの基準の作成に津田塾専門学校や東京女子高等師範学校などの女子高等教育機関が深く関わった点にも着目する。

第二として、戦前の別学政策が撤廃され、共学が教育基本法に規定された中で、戦前の女子高等教育機関が新制大学に転換する際、共学か別学を選択することになるが、その際の選択の論理はどのようなものであったのかも検討する。

また実施設立された女子大学については、その教育理念、学部、学科組織にどのような特徴があったかを、戦前の対比を含めて検討する。さらに、共学大学については、共学化の論理や共学化した大学の論理・背景を国公立別に検討する。

また、1950年前後の社会状況の中での共学大学・女子大学の位置を明確化する。

以上のように、本研究は、大学や社会における男女共同参画社会の実現が目指される今日、その課題解決のための歴史的素材を提供することになる。

3. 研究の方法

研究方法としては、関連資料の収集と分析が中心となる。主な資料としては、個別大学所蔵文書(教員会議記録、大学設立認可申請書、同窓会誌等)、国立公文書館所蔵の行政文書(設立認可申請書)、CIE文書、国会及び府県議会会議録、新聞・雑誌記事、大学関係統計書などであった。

4. 研究成果

研究成果は、主に早稲田大学内の学術雑誌に掲載した。その論文は、下にリスト化した。新制女子大学の設立過程・教育理念・学部学科組織などを分析し、その特徴を明らかにした論文=5点、女子専門学校などの共学・別学大学の選択に関わる論理などを考察した論文=3点、男子系大学の共学化の論理や実態を考察した論文=1点、その他=1点、に分けることができる。

これらの研究により、研究課題設定時の予測よりもかなり大きな成果をあげることができたと考える。今後、さらに本テーマの研究を進め、2年程度を目標として著書としてまとめたい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 10 件)

湯川 次義「戦後教育改革期における新制大学の共学化に関する一考察 - その政策と共学化の背景を中心に -」『学術研究』第 67 号、査読無、2019 年 3 月、17～39 頁。

https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=46249&item_no=1&page_id=13&block_id=21

湯川 次義「私立女子大学の設立過程と女子大学の論拠 - 1949 年以降を中心に -」『日本教育史論集』(早稲田大学大学院教育学研究科日本教育史研究室)第 6 号、査読無、2019 年 3 月、3～19 頁。

湯川 次義『『早稲田大学百五十年史』の概要とそこに求められるもの』『早稲田大学史記要』(早稲田大学大学史資料センター)第 50 巻、査読無、2019 年 2 月、169～183 頁。

https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=46425&item_no=1&page_id=13&block_id=21

湯川 次義「戦後教育改革期における女子大学の教育目的 - その特徴を中心に -」『日本教育史論集』(早稲田大学大学院教育学研究科日本教育史研究室)第 5 号、査読無、2018 年 3 月、59～70 頁。

湯川 次義「戦後教育改革期における女子大学の設置とその特徴 - 女子大学特設論の論

抛と教育目的を中心に - 』『早稲田教育評論』(早稲田大学教育総合研究所)第 32 巻第 1 号、
査読無、2018 年 3 月、109 ~ 116 頁。

湯川 次義「戦後教育改革期における女子薬学専門学校の大学転換に関する一考察 共学
化・別学化の視点から - 』『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』第 28 号、査読無、2018 年 3
月、59 ~ 72 頁

https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=40855&item_no=1&page_id=13&block_id=21

湯川 次義「新制私立大学の共学・別学の選択に関する一考察 - 同志社と青山学院の事例
を中心に - 』『学術研究』(早稲田大学教育・総合科学学術院)人文科学・社会科学編第 66 号、
査読無、2018 年 3 月、33 ~ 48 頁。

https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=41058&item_no=1&page_id=13&block_id=21

湯川 次義「新制女子大学の学部・学科組織に関する一考察 - 1948 年から 1950 年まで - 』
『日本教育史論集』(早稲田大学大学院教育学研究科日本教育史研究室)第 4 号、査読無、2017
年 3 月、45 ~ 57 頁。

湯川 次義「戦後教育改革期における公立女子専門学校の共学大学化に関する一考察 男
子系高等教育機関との統合過程と専門領域に着目して - 』『教育学研究科紀要』第 27 号、査読
無、2017 年 3 月、87 ~ 105 頁。

https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=36304&item_no=1&page_id=13&block_id=21

湯川 次義「1946 年以降の国立女子大学の設立過程に関する一考察 - 教育目的と学部構成
を中心に - 』『学術研究』第 65 号、査読無、2017 年 3 月、31 ~ 49 頁。

https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=37783&item_no=1&page_id=13&block_id=21

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：雨宮 和輝（早稲田大学教育学研究科 博士後期課程在学）

ローマ字氏名：Amemiya Kazuki

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。